

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、他者を思いやることにより、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 確かな学力の充実と進路実現。

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、新学習指導要領、高大接続改革に対応するため、1人1台端末や学習支援クラウドサービスの活用を含めた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざす。

*全項目平均値（R1：3.34、R2：3.36、R3：3.45/4点満点）を、令和6年度まで3.2以上、項目8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（R1：3.32、R2：3.34、R3：3.44/4点満点）を3.2以上で維持する。

*生徒向け学校教育自己診断のICT活用に対する満足度（R3：63%）を、令和6年度までに75%以上にする

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

*難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生+既卒生/R1：75人、R2：53人、R3：68人）を、令和6年度までに80人以上とし、一層の増加に努める

*国公立大学への現役生の合格者数（R1：139人、R2：141人、R3：163人）を、令和6年度まで130人以上で維持し続ける

ウ 英語運用能力の向上

英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

*より実用的な英語運用能力の育成のため前年までのGTECに代えて、実用英語技能検定での上級資格の取得をめざす。

*KITEC（ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）を継続し、KITECを通して、英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合（R1：98%、R2：93%、R3：95%）を95%以上で維持し続ける

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系・文理融合）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

*2年生の「課題研究」に対する満足度をさらに高めるとともに、課題研究発表会の生徒参加数（R1：720人、R2：720人[発表会はR3に延期]、R3：720人）を、令和6年度まで700人以上で維持する

イ 創造探究事業（大学や企業・研究機関との連携）の内容の充実

*文理学科1・2年生の外部連携事業への延べ参加者数（R1：2,122人、R2：1,827人、R3：1,950人）を、令和6年度まで1,500人以上で維持し続ける

ウ 海外の学校等との交流の推進

海外の学校等との共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる

*交流日数（R1年度：8日、R3：3日）について、令和6年度まで4日以上行い、さらなる内容の充実を図る

(3) 進路指導のさらなる充実

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

*1・2年生とも訪問先（1年生R1：63カ所、R2：63カ所、R3：63カ所 2年生R1：52カ所、R2：46カ所、R3：51カ所）を、令和6年度まで各50カ所以上、生徒満足度（R1：96%、R2：97%、R3：98%）を90%以上で維持し続ける

イ 3年間を見据えたキャリア教育の充実

学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

*学校教育自己診断の進路指導への満足度（生徒R1：85%、R2：91%、R3：93%・保護者R1：81%、R2：75%、R3：79%）を、令和6年度までともに80%以上で維持する

2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と社会参加力の育成

*学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率（生徒R1：85%、R2：89%、R3：92% 保護者R1：82%、R2：83%、R3：83%）を、令和6年度まで、生徒90%を維持しつつ、保護者85%以上に引きあげる

*部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（R1：100%、R3：28%）を、令和6年度まで90%以上で維持し続ける

(2) 自主的活動と規律・規範意識の向上

*部活動加入率（R1：86%、R2：89%、R3：86%）を、令和6年度まで85%以上で維持し、一層の増加に努める

*生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（R1：68%、R2：72%、R3：79%）を令和6年度まで75%以上を維持する

*年間の遅刻者総数（R1：2,128件、R2：2,377件、R3：2,264件）を令和6年度までに2,000件以下とする

(3) 安心で安全な学校環境

*生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く/R1：88%、R2：89%、R3：90%）を令和6年度まで85%以上で維持する。

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有

*教職員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（R1：81%、R2：85%、R3：62%）を、令和6年度までに85%以上とする

(2) 開かれた学校づくりの推進

*生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、部活動参加生徒によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる

- *本校が行っている教育活動について、学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする
- *中学校や大学との連携を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する

(3) 教員の資質向上とミドルリーダーの育成

- *教職員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率 (R1 : 79%、R2 : 90%、R3 : 76%) を令和6年度までに80%以上とする
- *教職員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率 (R1 : 82%、R2 : 81%、R3 : 62%) を令和6年度までに75%以上とする

(4) 「働き方改革」の流れを踏まえた、(校内) 安全衛生委員会機能のさらなる向上

- *教職員向け学校教育自己診断の教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談についての肯定率 (R1 : 85%、R2 : 79%、R3 : 66%) を、令和6年度までに75%以上とする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>■生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校の授業は知的好奇心を抱きやすく、内容が濃い」87% ・「本校の授業はわかりやすく楽しい」87% ・「授業には、ICT 機器が積極的に取り入れられ、1人1台端末が効果的に活用されている」68% ・「授業において生徒自身が自分の考えを発表したりまとめる機会が多い」90% ・「学習に対する評価は適切で納得できる」89% <p>■保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習に対する評価は適切で納得できる」86% ・「講習や補習は、子どもの学力向上や希望進路の実現に役立っている」83% <p>■教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業では主体的・対話的で深い学び等、さらなる向上をめざしている」93% <p>*授業における1人1台端末が効果的に活用については、来年度より3年間、リーディングGIGAハイスクール(アドバンスクラス)の指定校となり、新型プロジェクターが設置されました。進学に特化した学校における1人1台端末の活用法等のICTの活用のモデル校をめざします。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>■生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」92% ・「本校のカリキュラムは生徒の進路希望・適性に応じたものになっている」83% ・「土曜日や長期休業中の講習は学力向上や進路実現に役立っている」76% ・「教職員は生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」91% <p>■保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」85% ・「土曜日や長期休業中の講習は学力向上や進路実現に役立っている」83% <p>■教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の生き方や進路を考える機会を数多く提供している」93% ・「本校のカリキュラムは生徒の進路希望・適性に応じたものになっている」93% <p>*土曜日や長期休業中の講習について、3年生は93%と高評価でしたが、学年間に差がありました。生徒の希望進路実現に向けて、さらに戦略的、効果的な講習をめざします。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>■生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校の生徒指導の方針に共感できる」84% ・「人権を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」86% ・「本校の教職員は人権を尊重しており、体罰やセクハラはない」89% <p>■保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の生徒指導方針に共感できる」85% ・「人権を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」82% <p>■教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校の教職員は人権を尊重しており、体罰やセクハラはない」99% ・「生徒や保護者が、必要に応じて、気軽に相談できる環境が整っている」96% <p>*生徒指導等について、高い評価をいただきました。引き続き、高津らしい生徒指導を進めていきたいと考えています。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>■生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SSH、GLHSとして設定されている活動は充実している」89% ・「本校のクラブ活動は活発で、活動時間や活動内容は適切である」76% ・「本校の教職員は様々な悩みや疑問等に気軽に相談にのってくれる」77% ・「教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」94% ・「本校の教職員はいろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」76% ・「自分は学校行事や自治会・HR活動に積極的に参加・参画している」79% <p>■保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SSH、GLHSとして設定されている活動は充実している」86% ・「本校の教職員はいろいろな問題を見逃さずに対応してくれる」68% <p>■教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校の教育活動は、学校経営計画等に基づき、適切に行われている」94% ・「変化や状況に応じ、行事の見直し等に迅速かつ柔軟に取り組んでいる」71% ・「本校のクラブ活動は活発で、活動時間や活動内容は適切である」81% ・「保護者と緊密に連携し、信頼感が醸成されている」94% ・「本校の教育活動を積極的にアピールできている」87% 	<p>(第1回) (令和4年7月19日)</p> <p>【(1) 教職員の資質向上と学校運営体制の確立について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用のプロジェクトチームは具体的にどのようなことをしているのか。その年齢構成はどのようになっているか？ <ul style="list-style-type: none"> ➡効率的なICTの利用の研究やその普及を実施。オンライン授業に対応するためのスキルアップ研修を企画、実施。メンバーは、若年層中心で構成。 ・働き方改革にかかるような取組みは何かあるか？ <ul style="list-style-type: none"> ➡オンライン配信を希望する生徒情報を授業担当者と共有化するシステムを構築。普段行っている業務を見直し、業務の効率化を図るシステムを構築。例えば遺失物管理業務で“落とし物アプリ”を作成し活用している。これは他校へ汎用性のある取組みと考えられる。 ・“ミドルリーダー”の定義は何か？“ミドルリーダー”の具体的なポジションやあるべき姿、期待するものが見えてこないのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ➡学校現場も府教育庁も教員の年齢構成は20～30才台と50～60才台が多く、中間層が少ない。20～30才台で首席や指導主事となり学校や府教育庁を牽引し、将来的に教頭や校長になっていく人を育てなければならない。首席には、各分掌の連携や業務の“見える化”をめざしてもらいたい。 <p>【(2) 高津高校クリエイトラボ・セミナーについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって“先輩”という自分に近い人が語ってくれるのはとても力強く感じられる。 <p>【(3) KOZU Science Lab 研究交流会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流とは具体的にはどんなものか。 <ul style="list-style-type: none"> ➡近隣中等等の地域の中学生や小学生に対して、本校の研究成果を高津生がTAとして教授する。SSH事業を通じて、地域の小・中学生と連携していくことが重要なポイントである。 ・SSH事業を通じて、地域の小・中学生と連携していく際に、公立に限らず、私学も候補に入れて、開拓するとよい。それがまた学校のPRにもなる。 ・味原小学校等の地元の小学校との連携を進めていってもらいたい。 <p>【(4) 令和5年度使用教科書選定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“情報I”はどうなっているのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➡プログラミングやデータサイエンスなど大阪工業大学と連携し、授業で扱う教材を開発し提供してもらい授業を行っている。 <p>(第2回) (令和4年12月20日)</p> <p>【(1) 教職員の資質向上と学校運営体制の確立について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革について、努力目標はあるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➡月80時間をめやすとして本人にフィードバックし意識づけを行ったり、80時間超過の教員には、産業医の面談を実施。 ・部活動は時間外の時間に含まれるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➡含まれている。 ・ストレスチェックの総合健康リスクが前年度より低下とのことだが、ストレスチェック、授業アンケートについて他校と比較しているのか？ <ul style="list-style-type: none"> ➡他校の状況は公表されていない。ストレスチェックは全体の平均値100を基準としている。 <p>【(2) KOZU Science Lab 研究交流会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスラボの実践は大変興味深い。そのあたりを詳しく教えてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ➡本校生は科学部、サイエンスツアーの生徒が参加。8月に学習会を実施し、プラスチック等の素材を加工して通電性にしてスピーカーを作成した。当日は音が鳴って拍手が起り、児童・生徒は達成感があったと思われる。後半の講演会には58名の本校生も参加。年齢の近い卒業生の話は進路選択の参考になった。 ・ロールモデルとして面白い試みなので、科学以外のほかの分野でも期待したい。 ・高校生が教えることの難しさや喜びを体験できる良い機会になったと思う。最先端の講師を迎え、高校生には身近に感じられたと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ➡クリエイトラボ・セミナーやサイエンスラボ研究交流会は本校独自の取組み。本校HPの「これから探究活動を進める学校へ」の内容を更新し、8月初めにアップしたところ700回の閲覧があった。今後は高津を拠点校とし、さまざまな学校で汎用性のあるものを提供できればと考えている。 <p>(第3回) (令和5年3月22日)</p> <p>【(1) 大学合格状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の努力の成果がよく分かった。筋の通った方針が貫徹された結果が表れた。 <ul style="list-style-type: none"> ➡75期生はコロナに始まりコロナに終わった学年。1年生の頃から担任団が強く言ってきた「学校中心」「最後まであきらめない」という学年の方針が現れた結果と推察。

<p>・「学校運営に積極的に参加・参画している」83%</p> <p>*学校運営については、高い評価をいただきました。 多忙な中、教職員のSSH、GLHSの取組みへの情報共有をより高めていきたいと考えています。</p> <p>【その他】</p> <p>■生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高津高校に入学してよかった」90% ・「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」66% <p>■保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高津高校に入学させてよかった」91% ・「本校はいじめについて真剣な対応を期待できる」61%（わからないが35%） ・「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」56% <p>■教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の個人情報適切に守られている」100% ・「各分掌や学年・教科が連携し、組織的に機能の向上に取り組んでいる」62% ・「経験の少ない教員や次世代リーダーを計画的に育成している」80% ・「教職員の教育活動に関する学習機会が適切に提供されている」75% ・「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応できる」94% ・「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」59% <p>*今年度も、生徒・保護者ともに「高津高校に入学して（させて）よかった」という回答が安定して高水準でした。一方で、今年度もトイレ改修を一部行いましたが、トイレ等の環境面は、引き続き低い評価となりました。さらにトイレ改修を行うなど、望ましい学習環境の維持に努めます。また、保護者のいじめ対応の期待面では、「わからない」という回答が35%を占め、肯定率が61%となりました。いじめを許さない等の人権尊重の教育については、これからも推進してまいります。</p>	<p>【(2) 令和4年度学校教育自己診断結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の反応はいい。力を合わせて指導を充実させてほしい。 ・全体的な感想として、大変ポジティブな反応。教職員の力の合わせ方が充実していると思うが、教職員⑬（自治会活動）がポイントを下げている。コロナの影響なのか分析を聞かせてほしい。生徒は主体的に活動されていると思うが。 <p>➡行事をやっていくうえで、教員が支援する部分と生徒の自主性を活かす部分のバランスが課題。今後、コロナへの対応が変化していく中で、学校組織として、自治会や生徒の力量を高める仕掛けが必要と考えている。</p> <p>【(3) 令和4年度学校評価ならびに令和5年度学校経営計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスを見ながら強みを伸ばしつつ、課題を解決していくことができなければならない。課題ばかり見ていると解決したら強みもなくなってしまうこともある。両方を見ていくことが重要。 ・戦略的に考えられている。数字が（今後）どう動くか楽しみ。 ・貴校の生徒さんは、これからの社会のリーダーになるという意識を持って学習し、進学し、社会に出ていく人たちなので、ぜひその思いみたいところをこれからもご指導よろしくお願ひしたい。 ・令和5年度計画変更なし、これまで通りの取組をさらに強化していくということは評価したい。 ・スクールミッションと計画は連動していると思うが言及しなくていいのか確認させていただきたい。 <p>➡スクールミッションについては、「自由と創造」「日新日進」がベースにある。府教委のアンケートで、ほぼすべての生徒が本校の校風校是にあこがれて入学してくるという結果が出ている。これが本校の最大の特徴であり、それを踏まえて教育活動が成り立っているということを教職員と共有しながら今後も進めていきたい。</p> <p>※質疑応答・討議の後、令和5年度の学校運営方針（案）について、承認された。</p> <p>【全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員、校長が協働してチーム学校が機能していることがよく分かった。 ・成果が上がっている部分も確認できた。この方向でより強化され、邁進してほしい。 <p>➡本校の取組を普及させることによって、府立学校全体が活性化すれば良いと考えている。「自由と創造」、高津が創造して他校がそれをモデルとして参考にしてもらうよう進めていきたい。今後ともご支援をお願いします。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進	(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す ア・教員の指導技術の向上 イ・講習・補習の充実 ウ・英語運用能力（4技能）の向上	(1) ア・新学習指導要領、高大接続改革に対応するため、1人1台端末や学習支援クラウドサービスの活用を含めた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざす。 イ・土曜講習、放課後・長期休暇の講習の充実。自習室の活用。 ウ・1・2年生全員を対象に、実用英語技能検定を活用して英語運用能力の向上を図る。 ・KITECを実施し英語会話能力の向上をめざす。 ・国際交流センター留学生との語学交流事業GULSを継続する。	(1) ア・教職員向け学校教育自己診断の「さらなる指導技術の向上」に関する項目の肯定率を90%以上とする。 [93%] イ・1年生の土曜講習全員参加、2・3年生の参加率の維持。[1年17日 2年20日 3年18日] 自習室の維持。[103日] ウ・KITECを通して、英語運用能力が向上したと回答した生徒の割合を95%以上とする。[95%] ・語学交流事業GULSの生徒満足度を90%以上で維持する。[100%]	(1) ア・リーディングGIGAハイスクール（アドバンスクラス）指定校へ（○） 教職員向け学校教育自己診断の「さらなる指導技術の向上」に関する項目の肯定率93%（○） イ・土曜講習（オンライン講習含む） 1年20日、2年18日、3年20日 自習室99日開放、 1日あたりの平均人数40人（○） ウ・KITEC生徒満足度95.5% GULSの生徒満足度91.7%（○）
	(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探求心を高める ア・課題研究の充実 イ・創造探究事業の継続 ウ・海外の学校等との交流の推進	(2) ア・課題研究の充実をはかり、1・2年生の全員を対象とする。生徒の満足度の向上をはかる。 イ・本校独自の事業の他、他の団体等の事業への生徒の参加を促し、幅広い能力の向上を図る ウ・海外の学校等との共同研究や交流を積極的に推進	(2) ア・参加生徒数700人以上を維持。生徒満足度の向上 イ・創造探究事業への延べ参加人数1,500人以上。[1,950人] ウ・オンラインを活用した交流を4日以上。[3日] 参加生徒の満足度を90%以上。[93.1%]	(2) ア・参加生徒数712人（○） イ・1,945人（○） ウ・SDGsをテーマに韓国・台湾・フィリピンの高校生とオンライン交流会を4回実施。（○） ・海外への興味関心100% ・自分の将来を考えるうえで得るものがあった 90.5%

府立高津高等学校

	<p>(3)進路指導のさらなる充実 ア. 体験型進路学習の一層の充実 イ. キャリア教育の充実</p>	<p>(3) ア・交流対象校と交流内容とともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。 イ・生徒・保護者に対して3年間を見通した進路指導計画を提示し、理解を得る</p>	<p>(3) ア・体験型進路学習に対する生徒の満足度を90%以上で維持する。[98%] イ・学校教育自己診断の進路指導への満足度を80%以上。[生徒93%・保護者79%]</p>	<p>(3) ア. 1年職場訪問63か所(7月実施) 生徒満足度97%(○) 2年研究室訪問52研究室(11月実施) 生徒満足度94%(○) イ. 学校教育自己診断の進路指導への満足度 生徒91%・保護者79% (○)</p>
<p>2 豊かな心の育みと規律・規範の確立 スクールアイデンティティに基づく</p>	<p>(1) 人権尊重と社会参加力の育成 (2) 自主的活動と規律・規範意識の向上 (3) 安心で安全な学校環境</p>	<p>(1)人権を尊重し、社会への参加の意識を醸成する (2)部活動・自治会活動など生徒の自主的な活動を支援。生徒の規律を重んじ規範を守る心を育てる。記念祭での三部会(教員・自治会・生徒)での運営の維持 (3)保健室・相談室などの生徒に対する心身の健康を維持する環境の充実</p>	<p>(1)学校教育自己診断の人権に関する指導の肯定率とともに85%以上とする。[生徒92%・保護者83%]高津キャラバン隊の参加率100% (2)部活動加入率を85%[86%]、自治活動に関する肯定率80%[79%]、記念祭の満足度95%[99%]、遅刻者数を2,000件以下にする。[2,264件] (3)生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度維持。[76%] 保護者の学校への相談に対する満足度を維持。[86%]</p>	<p>(1) 人権に関する指導の肯定率生徒86%・保護者82%(○) 高津キャラバン隊91%(△) 東大阪支援学校との交流会、大阪城公園の清掃等活動内容は充実(○) (2)部活動加入率85.8%(9/1現在)(○) 自治活動に関する肯定率70%(△) 記念祭の満足度(○) ・体育祭99.2% ・文化祭98.2% 遅刻者数2月末現在2,663件(△) (3)保健室利用、教育相談に対する満足度 生徒74% 保護者83%(○)</p>
<p>3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立</p>	<p>(1) 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有 (2) 開かれた学校づくりの推進 (3) 教員の資質向上とミドルリーダーの育成 (4)「働き方改革」の流れを踏まえた、安全衛生委員会の機能向上</p>	<p>(1)意思決定経路を明確にし、教職員の学校運営への参加の意識を促進する。 (2)本校が行っている教育活動について、学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする。また、中学校や大学など他校種との連携を行う。 (3)教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。 (4)「働き方改革」の流れを念頭に、快適な職場環境の形成とともに教職員の意識を醸成する。</p>	<p>(1)各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見を70%に向上する。[62%] 学校運営に参画しているに対する肯定率を上げる。[66%] (2)「教育活動を中学生や保護者に積極的にアピール」に対する肯定率を85%以上にする。[81%] (3)研究授業の実施。生徒授業アンケートの振り返りシートを作成し、PDCAサイクルを確立する。生徒向け授業アンケートの全項目平均値を3.2以上。[3.45] 校内研修に関する肯定率を80%に。[76%]ミドルリーダー育成に関する肯定率を70%。[62%] (4)「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率を70%以上とする。[66%] ストレスチェックの総合判定の低下。</p>	<p>(1)各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見62%(△) 学校運営に参画しているに対する肯定的意見83%で17P向上(◎) (2)「教育活動を中学生や保護者に積極的にアピール」に対する肯定率87%(○) (3)第1回、第2回生徒授業アンケート1～9全質問の平均値3.42(○) 校内研修に関する肯定率75%(△) ミドルリーダー育成に関する肯定率80%(◎) (4)教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率81%(◎) ストレスチェックの総合健康リスクは低下98(▲16)(◎)</p>